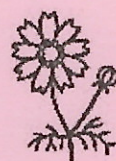


ほっとねっと



二次予選出場者14名が決定!



今回も、ハイレベルな参加者が多い中
審査員の方々の慎重な審議の結果
第2次予選出場者14名の方が選出
されました。

二次予選出場者 (エントリーナンバー)

6	8	10	31
32	33	40	46
64	69	72	86
90	94		

以上の方々です。

【二次予選 課題曲】

1) ①②より1曲選択

① C M von Weber KLARINETTENKONZERT f-moll Nr.1 op.73

② C M von Weber KLARINETTENKONZERT Es-Dur Nr.2 op.74

2) 1980年以降に作曲されたクラリネット無伴奏ソロ曲を演奏する

(出版されている曲に限る)

10分以内におさめること (カットしてもよい)

今年度のイベント情報

- 2025.2.9(日) Valentine Concert 2025
NHK交響楽団特別コンサートマスター
篠崎MARO史紀と愉快的仲間たち
- 2025.6.29(日) コスミック落語会
林家 染丸 桂 慶枝
- 2025.7.21(月・祝) 親子で楽しむクラシック名曲コンサート
こどもオペラ “3匹のこぶた”
- 2025.8.23(土) 夏休みおもしろ工作教室
市内小学生 募集定員30名
- 2025.8.24(日) みんな集まれ コスミック広場(コスミックマルシェ)
- 2025.9.15(月・祝) 加東市市制20周年記念事業
佐渡 裕 指揮
兵庫芸術文化センター管弦楽団 加東市特別公演



ボランティアスタッフ歓迎の言葉

日本木管コンクール36回目が開幕。115名のネット審査を終え、94名のクラリネット奏者がステージで審査に挑みます。

人口4万に満たないこの加東市に、今までどれほどの若者が木管コンクールに来られたのだろうか?ふり返って応募者の数を計算してみますと、何と、4000人を超える若者がこの地に!心新たに喜びを感じます。そして、その度ごとに、私たちボランティアも希望に満ちた若き演奏家とふれあって、木管コンクールを支えてきて、『今』のあることに誇りを感じます。

今年も、延べ130人のボランティアスタッフがスタンバイ、応援しています。心おきなく、伸び伸びと、日頃の練習の成果を発揮してください。

審査委員によるミニコンサート

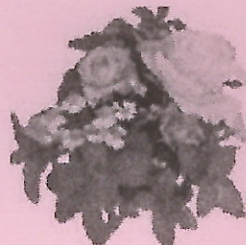
日時 11月9日(日) 16:00頃~



1. W.A. モーツァルト
ディヴェルティメント 第2番 K.439b
2. アルフレッド・ウール
ディヴェルティメント

～ 出場者の方々の感想 ～

- 中国の音楽大学の1年生でクラリネット専攻です。日本木管コンクールは、兄がインターネットで調べてくれてこのコンクールに来ました。日本に来たのは初めてでとても心配しました。このホールは響きがとてもいいです。
- 初めての参加なので、とても緊張しました。ホールがよく響くと聞いていたのですが、思ったよりよく響いていて、その響きの良さに驚きました。気持ちを振り戻して修正したのですが、ふだんの練習から、コンクール本番を意識して練習しないといけななあと感じました。
- 素晴らしいホールなんです。ホールの響きが、私の調子が良いかどうかを教えてください。このホールは、そんなところなんです。
- コンクールに出ることが初めてで、緊張があったのですが、ホテルからの移動時間から温かく接して頂いて緊張がほぐれました。又、ホールの響きは、演奏している者にも、聴いている者にも共にいい響きを感じられ、とても良いホールだなと思いました。
- 先輩から聞いて参加しました。やつぎばやな感じがなく、ゆったりと演奏できました。会場も音がしないように工夫されていて、演奏しやすかったです。
- ホールの響きがとても良くて、それも、第1楽章と第2楽章の響き方が違って不思議な気持ちになりました。

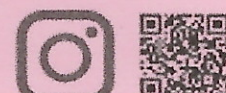
コンクールを見守った花たち
～ありがとう～

玄関広場のコスモス、入口を飾る黄色の傘菊、それぞれがきれいに花開いて出場者をお迎えしました。スタッフが丹精をこめて育てた花々です。

ホール玄関入口の花…4つの傘菊は、三草の藤原宏美様から提供していただきました。この夏の猛暑と鹿の食害を頑張り抜いた特別な四鉢だそうです。そんな

試練を感じさせないほど元気に咲いて存在感を醸し出してくれました。

ホールやリハーサル室、廊下の机上には、可愛らしく、やさしく、鮮やかに匂うアレンジメントのバラの花…アサミローズセレクション様から提供していただきました。会場のあちこちで出場者を見守り、心を和ませてくれました。いつも温かいおもてなし、本当にありがとうございます。



第36回日本木管コンクール

(クラリネット部門)

会場: 東条文化会館コスミックホール

発行日 2025年11月8日(土)

(第2号)

発行: 日本木管コンクール委員会

〒673-1311

兵庫県加東市天神66

Tel. 0795-47-1500

審査員の先生による〈一次予選〉講評

※委員名は五十音順です

山本 正治

東京藝術大学名誉教授 武蔵野音楽大学特任教授

〈審査委員長〉

1次予選終わり14人の方が残りました。演奏には楽器を演奏する技術力と音楽を作る音楽的センスが要ると思います。技術力を身につける為にはロングトーン、音階などの基礎練習。基礎練習をする為にも音楽的センスが無いとただ楽器をコントロールするだけのテクニックが身についてしまいます。音階練習する時も頭に作曲家が浮かんでいると良いです。センスを身につける為には、オペラ、弦楽器、ピアノの演奏会などに行って、まず自分が沢山感動すると良いです。今回の1次の課題曲は、Stravinsky、Donizetti、またKovácsのHommage à M. de Falla ・Hommage à R. Strauss とそれぞれに作曲家の個性が強い曲です。R. Straussはオペラ「薔薇の騎士」、M. de Fallaは「三角帽子」など譜面見ながら勉強すると良いと思います。Fallaの曲はスペイン風のリズムが大事ですし、Hommage à R. Straussの最初のリズム、途中のLangsamの歌う感じ、また3拍子のワルツの感じなどはオペラ「薔薇の騎士」に似てるところが沢山出てきます。良い演奏家になる為に沢山管楽器以外の演奏会に行ってください。

磯部 周平

昭和音楽大学客員教授 東邦音楽大学特任教授

〈運営委員長〉

まずは自分を認めたい。他人はそれを『過信』と言うかも知れないけれど、充分自分を信じて、少なくとも将来、夢見た自分に近づく事を信じたい。その上で、作品の背景、時代の空気、一曲の作品を創造するずば抜けた作曲家達の心と楽譜を今出来るあらゆる手段を使って研究したい。ドニゼッティはいつの時代の作曲家か 今回残念ながら自分の方へ作品を引き寄せ過ぎた人が多数。ストラヴィンスキー がわざわざ八分音符は16分音符3つの長さで楽譜に書いているにも関わらず、曖昧な演奏がありました。(『春の祭典』には16分の5拍子が沢山！)コヴァーチさんの作品は「オマージュ」なので作曲家への愛、尊敬や畏敬を素通りして音符だけを追っては片手落ちです。自分への愛は大切に育てつつ、作品が教えてくれる今の自分に足りない部分をしっかりと把握しましょう。他人と比べる、競うというコンクールだからこそ、自分を信じ、じっくり作品と向かい合う幸せと音楽が出来る喜びを感じてほしい…と思いました。

小谷口 直子

京都市交響楽団 首席クラリネット奏者

何度でも録り直しをできる動画提出よりも、舞台の上でこの日この時に一発本番、のほうはずっと難しいはずですが、皆さん総じて予備審査の時よりずっと完成度高く仕上げてこられていたことがとても印象的でした。二次・本選の曲の準備も、コンクール以外の日々の活動もある中で、自分で選んだとはいえ、一次の「この1曲」から逃れられない数ヶ月を過ごすのは本当にタフなことだったと想像しますが、向き合う時間が、作品が、生の舞台が、目を見張るような成長をそれぞれに授けてくれること、改めて素晴らしいと感じました。個人的には、速くて凄いい演奏(←羨ましいですが)よりも、全ての音に耳と心が届いているのがはっきりと聴こえる演奏が好きです。残念ながら二次に進めなかった人の中にも、そのような演奏はいくつもあり、嬉しかったです。皆さんそれぞれの明日へ向けて、また元気に頑張ってください◎

十亀 正司

武蔵野音楽大学非常勤講師 (株) 亀の子音楽工房代表取締役

クラリネットコンクールの一次審査を終えて感じたのは、年々全体のレベルが確実に底上げされているということです。その中で最難関ともいえる一次を通過するのは容易ではなく、通過できなかった人の中には実力だけでなく運や当日の体調といった要素も影響したかもしれません。このコンクールの課題曲はいずれもテクニカルな側面が強く、皆さん高い技術で演奏していました。しかし、次の段階へ進むためには、音符を正確に並べるだけでなく、それをどれだけ音楽的・メロディックに表現できるかが鍵になります。フレーズを意識し、単なる音の羅列ではなく「歌」として聴かせる感覚が求められます。全体の水準が上がった今、技術だけでは差がつかず、音楽としての説得力こそが評価を分ける時代になっていると強く感じました。

中舘 壮志

読売日本交響楽団首席クラリネット奏者

1次予選が1番難しいのだなと強く感じました。あの緊張感の中、与えられた時間は5分弱で、その間に色々なことをアピールしなければなりません。人よりテンポを速くするのも1つの作戦かもしれませんが、技術的な平均レベルが高くなっている為、それが通用しなくなっている様に感じます。ドニゼッティ、コバーチは音階、アルペジオを雑に吹かず、和声をもっと大切にしてほしい。ストラヴィンスキーは1曲目のアーティキュレーションが聴き取れない人が多かったのが気になりました。それぞれの作曲家の他の作品(オペラ、交響詩など)のフレーズを思い浮かべながら演奏すると、速くヴィルトーゾに吹く事よりも大事なことが見つかると思います。

ブルックス 信雄 トーン

愛知県立芸術大学 准教授

日本木管コンクールの審査を務めることは、いつも私にとって大きな光栄です。今年も若い演奏者のみなさんの演奏を聴き、多くの刺激を受けました。日本の若い演奏者のレベルは毎年上がっており、多くの方がとても高い技術を持ち、ほとんど間違いなく演奏していました。そのため、今回の予選で人数を絞ることは本当に難しい作業でした。私が最後の判断で大切にしているのは「表現力」です。技術はもちろん重要ですが、それだけでは音楽の魅力は十分に伝わりません。曲の感じ方やフレーズの流れ、音にどんな思いを込めるか——そういった部分にも、これからぜひ同じくらい力を入れてほしいと思います。聴く人の心に残るのは、やはり演奏の「表情」や「気持ち」です。みなさんの今後の成長を楽しみにしています。

三界 秀実

東京藝術大学教授

今回の審査はいつにも増してレベルが拮抗しており、本当に難しい審査となりました。何十人もの方が当落線上にいたような印象です。これまでのコンクールであれば「もっと楽譜通りに」とか「作曲家の持つ様式感を考えて」といった言葉がすぐに浮かんできたのですが、今回はそんなレベルを軽々と超えている人たちが半数以上はいたのではないのでしょうか？残念ながら結果が伴わなかった人はあまり悲観せず、今回はたまたまの結果だと割り切って次の目標に頭を切り替えて欲しいです。コンクールというものは音楽の広大な世界の中ではほんの一部分にすぎない、ということも忘れずに。ただできれば2次、本選の演奏を聞いてください。多くの他の人の演奏を聞くことで、自分の演奏を客観的に見つめ直すきっかけになるかもしれません。そしてその中から必ず新しいヒントを見つけることができると思います。

～加東市ふるさと納税

(ふるさと応援活動支援金)のご協力をお願いいたします～

特定の団体(支援希望団体)に対する寄付の受付を開始しています。

QRコードをスマホ等で読み取っていただくと加東市ふるさと応援活動支援交付金制度のページにつながります。申請用紙については、ホームページからダウンロードできます。特定の団体(支援希望団体)については、「特定非営利活動法人“新しい風かとう”」にお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。また、団体名をクリックしますと「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」のホームページをご覧いただけます。～加東市ふるさと納税(ふるさと応援活動支援金)のご協力をお願いいたします～

～日本木管コンクール開催における 協賛金・ご寄附に

ご協力をお願いいたします～

日本木管コンクールは、地元の企業や楽器メーカー各位をはじめ、コンクールを応援して下さる個人の皆様の温かいご寄付とご協賛支援に支えられて取り組んでまいりました。「この素晴らしいコンクールと文化の灯を消してはならない」との思いと、若手音楽家の登竜門として、また日本の音楽文化の発展に寄与した功績をご理解いただき、今後もコンクールを継続するためにもご協力を仰ぎたいと考えております。どうぞ、皆様の温かいご支援を宜しくお願いいたします。詳しくは「特定非営利活動法人 “新しい風かとう”」又はQRコードをスマホ等で読み取ってご覧ください。

加東市東条文化会館

コスミックホール

ホームページ

<http://cosmic-hall.org/>